

人生100年時代。あなたはどんな人生を描きますか…

長野市



10月の週末はイベントが目白押しだ。今日も親子連れやシニア世代の夫婦など、多くの市民が長野市のエムウェーブを訪れた。10/13（土）に開催された「長野県協同組合フェスティバル2018」は、県内の協同組合間連携の一環として、協同組合の活動を市民に広く知ってもらうことを目的に毎年開催されているイベント。

コープながの（センター法人賛助会員）からのお誘いを受けて、当センターは初めて参加した。

エントランスにずらりと並ぶ白いテントには、県内特産物の試食販売、野菜の収穫体験、スコップ
三味線のステージ発表、家族で楽しめる体験コーナー、健康チェックなど多彩なイベントが集まった。

「人生100年時代！描いていますか？あなたのライフデザイン」が私たちのブース名。会議室の一番奥に位置するため、「ちょっと覗いてみたくなる」シニア大生によるユニークな『活動ポスター』と、シニアに優しい『導線』をイメージしたレイアウトで皆さんを迎えた。



「あなたはどっち？」シニア大に通ってにっこり、通わなくてしょんぼり…この表示に心がざわついたシニアから現役世代、子育て中のお母さんに小さなお子さんまで約50名がブースを訪れた。「卒業生です」と話すシニアも多く「今でも定期的に当時の仲間と集まるよ。出会いがうれしいね」と、にっこり笑って教えてくれた。



まずは、NHKの番組「ためしてガッテン」が配信する「人とのつながりチェックシート」（東京大学高齢社会総合研究機構 飯島勝矢教授考案）でセルフチェック。

記入したシートを見ながら「女性はどこでもおしゃべりができてすぐに仲良くなるが、男はなかなか…」と話すシニア男性に、「健康長寿のためには、たばこやお酒をやめることも大事だが、何より人とのつながりが大切です。あなたも地域に飛び出しましょう。」とソフトな口調で声をかけて

くれるのは、県シニア大学専門コース修了生でセンターのシニア地域プロデューサーでもある藤澤さん。現役シニアの言葉に「なるほど」と若い男性もうなずいた。

「100歳まで、あと10年」と話すのは、本日最高齢のOB男性。「健康の秘訣は、長年続けている社交ダンスと、お酒に小指かな（笑）」うん？小指？…確かに《笑い》と《通う先がある》ことは長寿の秘訣。「今日の出会いに感謝します」と握手をして別れた。

「出会った人にいつも渡している」と、広告で折った三羽鶴をくれるシニア男性。手持ちのバックにはたくさんの鶴が入っている。連絡先こそないけれど、退職後に無くした名刺代わりに三羽鶴が人との出会いをつないでくれるようだ。

「教えて、あなたの人生100年」コーナーでは、「あなたが100歳まで生きるとしたら？」の問いに、「英語を覚えて世界一周がしたい」「息子に会って多めに話がしたい」「いろんな動物を飼って眺めて暮らしたい」と思い思いのメッセージが寄せられた。

「おじいちゃん・おばあちゃんから何を教わりたい？」の問いには、「子ども達に草笛を教えてほしい」「昔ながらの郷土料理」という若いお母さんや、覚えてたの字で「たけうま」と書かれたかわいいメッセージも。

「こんなこと、今まで考えたことがない」と話す現役世代のお父さん。「まだ先の話のような気がしていたが、確かに、今から考えないとね」と自分に宛てたメッセージには、「第2の人生でサラリーマンと別の人生を送る」とあった。

人生100年時代。あなたはどんな人生を描きますか…

